

石田弁護士によるいじめ防止に関する講演会

朝日新聞に掲載されました

令和四年十月二十九日(土) 掲載

「仲間はずれ」痛み感じる部位反応

会議室のモニターに映し出されたのは、脳の一部が赤色で活動が強いことを示す画像。「何に関連したところだと思っ？」。27日、県立青翔中学校・高校(御所市)でいじめ防止に関する講演会が開かれた。講師の石田達也弁護士は「大事なのはいじめの恐ろしさを知る(ことです)」と強調した。

石田さんはいじめに関する事件を多く手がける。脳の画像は、「仲間はずれ」にされると脳はどう反応するかという実験の結果だ。「赤いのは痛みを感じる部位です」。暴力を伴わないいじめでも痛みを感じると説明した。「仲間はずれ」にされた時の脳の反応が、PTSD(心的外傷後ストレス障害)を発症した人に近いといった実験結果も示した。

被害者の救済、加害者の更生をめざす「修復的正義」や敵罰化の現状についても説明。「答えは一つじゃない。どう組み合わせ、どう被害者、加害者に手を差し伸べるか」

会議室にいた中高生は真剣な様子でうなずいたりメモを取ったり。オンラインでも約400人の生徒が視聴した。生徒会長の辻本大智さん(高2)は「仲間はずれにされることが脳に作用すると初めて知った」と感想を述べた。

石田さんは「なぜいじめがゆるされないか、データや客観的な資料に基づいて理解してほしい」と語った。

講演会は奈良女子大の伊藤美奈子教授(学校臨床心理学)を中心とした研究プロジェクトの一環だ。伊藤教授は「何をしたら再発防止につながるだろうかと考えていた。いじめに対する認識がどう変わったか追跡したい」と話した。

(米田千佐子)

脳が示す いじめの恐ろしさ

石田弁護士、青翔中・高で講演



生徒に向けて講演する石田達也弁護士＝御所市の県立青翔中学校・高校

被害者の救済、加害者の更生をめざす「修復的正義」



校内記録者撮影写真